

# 洪水時の行動

## 洪水から避難する時の行動

### 危険を感じたらすぐ避難しましょう！

災害時には、市が避難勧告や避難指示を発令する場合がありますが、災害時の避難で何よりも大切なのは、

**危険を感じたら自らの判断で早めに避難することです。**

#### 危険度

弱

#### 洪水発生のおそれあり

#### 自主避難

大雨が続き不安を感じたり、体力に自信がないなどの場合は、早めに地域の避難所へ自主避難しましょう。

#### 避難準備情報

人的被害の発生する可能性が高まった時に市から発表されます。避難行動要支援者など、特に避難行動に時間を要する方が避難行動を開始しなければならない段階です。

#### 避難勧告

人的被害の発生する可能性が明らかに高まった時に市から発表されます。通常の避難行動ができる方が避難行動を開始しなければならない段階です。

#### 避難指示

前兆現象の発生や現在の切迫した状況から、人的被害が発生する危険性が非常に高いと判断された時に市から発表されます。

避難が危険な場合は、自宅や近所の2階などに避難して屋内で安全を確保してください。

**はん濫発生**



屋外への避難が危険な場合は、上層階に避難



- 家族で集まる。
- テレビ・ラジオをつけ気象情報などを収集する。
- 家財道具を高いところへ移動。
- 避難の準備。
- 避難先の確認。
- 助け合って避難する。



- 元栓・ブレーカーを切る。
- 戸締りの確認。
- 車で避難しない。
- 落ち着いて避難する。
- 隣近所に声かけて。
- 助け合って避難する。



- 万が一、逃げ遅れた場合は、自宅の2階などに避難する。
- ラジオをつけ被害の状況や、今後の気象情報を収集する。

大雨気象情報  
注意報

大雨気象情報  
警報

数十年に一度の大雨

特別警報

強

伊予市の大雨注意報・大雨警報の発表基準

	大雨注意報	大雨警報
平坦地	1 時間雨量 30mm以上	1 時間雨量 50mm以上
平坦地以外	3 時間雨量 50mm以上	3 時間雨量 100mm以上

発表官署：松山地方気象台

災害の種類によって、開設される避難場所が異なります。「災害種別指定緊急避難場所 (21 ページ)」で確認してください。

## 避難の心得

# 避難時に必要となる様々な 心得を知っておきましょう！

## 避難の呼びかけに耳を傾ける

危険が迫ったときは、広報車や防災行政無線などからの避難の呼びかけに注意しましょう。



## 身を守る格好で避難する

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、長靴より紐で締められる運動靴かトレッキングシューズをはきましょう。レインコートは、上下が分かれているタイプがよいでしょう。



## 電気・ガス・戸締まりを確認する

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締まりを確認しましょう。



## 車で避難しない

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げとなります。また浸水すると、車は動かなくなるので使わないでください。



## 地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。



## 高い場所に避難する

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら建物の2階以上、または屋根の上で救助を待ちましょう。



## 流れやすいものは屋内に移動する

ポリタンクなど軽いものを屋外に置いておくと、浸水によって流れていってしまうので、事前に屋内に移しておきましょう。



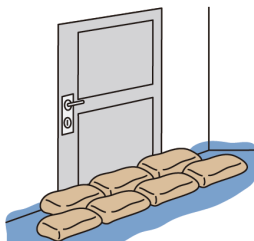
## 水面下の安全を確認しながら避難する

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認しながら歩きましょう。



## 室内に水が入らないよう対処する

扉の下の隙間から水が入ってくるので、「水のう」や「土のう」「板」などで前面を囲み、「タオル」で隙間をふさぐとよいでしょう。



## 危険な場所を避け、はん濫水は触らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないでください。また、はん濫水には汚水が混ざっているため、子どもなどが触らないように気をつけましょう。

